

10月3日、札幌支部のレクがありました。最初の予定は、恵庭市の紋別岳でした。

台風の影響で道路が通行止めで行けなくなったので、予定を変更して、札幌市中央区の円山、登山になりました。当日は前日迄は雨の予想でしたが、小雨で登山の時は止みました。

9時30分に円山公園駅に集合して、10時から、登山を始めました。約30分～40分位で山上に着きました。ちょうどいい、登山でした。

下山後、サッポロファクトリーに移動して、新組合人の歓迎会をしました。ジンギスカンとビールで楽しいレクでした。

小雨 の降る中の登山



春闘アンケート

今年も、2015年、春闘要求アンケートに、ご協力をお願いします。

今、職場で何が起きているが、分かる、大事なアンケートです。返信用封筒もありますので、活用して下さい。

詳しくは組合人が支部迄、よろしくをお願いします。

安い掛け金で、驚き！

10月2日北海道支部代表者会議と共済の学習会がありました。

東京本部から、齊藤職員が来られて、分かりやすく、説明してくれました。

団体生命共済、医療共済は、月、100円から、入れるので、契約社員も入りやすし、65歳過ぎてもシニア型に加入出来る事が分かりました。

交通災害共済は、月、200円で死亡400万入院1日6000円が支払われるので、驚く人もいました。火災共済では、キャンペーン中で支部で10口加入なら、1年間分プレゼントがあることを話し、今何があるが分からないので、他の保険より安くて、保障がいいので、加入して欲しいと話していました。

平成27年用年賀販売

（コンプライアンス研修で全社員に理解させること）。また、昨年引続き指示文書が発出された。（26・日郵営135 26年9月18日）

本当に出来るのか？

年賀葉書の販売における不適正営業防止に向けた取り組みをすとした。

1・不適正営業防止に向けた各種取組の実施

▼コンプライアンス研修の実施

実施、「実需に基づかない自社商品の買い取り（自爆営業）の禁止」や、「信書の秘密の保護」等のコンプライアンス遵守を徹底するために10月29日まで、管理者を含む全社員にその内容を理解させるための研修を実施する。

2・立替払の禁止等

▼年賀販売代金の社員による立替払の禁止、「年賀葉書の販売代金を社員が立て替える（以下「立替払」）行為は、社員に勤務時間外営業・代金回収のリスクを負わせることとなるため禁止。

3・内部通報窓口の周知・徹底

▼行き過ぎた営業指導を抑制するため、販売開始までに、全社員に対し、ミーティング等で別紙を管理者が読み上げる。

4・金券ショップへの持込みの防止

▼金券ショップに持ち込まれた年賀葉書の出所の追跡調査ができるよう、切手庫から払い出す前に、又は物流センター等から到着した都度、局内で販売する年賀葉書の箱表面の適宜の場所に、日付印 局名を特定ゴム印等

（コンプライアンス研修で全社員に理解させること）。また、昨年引続き指示文書が発出された。（26・日郵営135 26年9月18日）

（コンプライアンス研修で全社員に理解させること）。また、昨年引続き指示文書が発出された。（26・日郵営135 26年9月18日）

別紙

1・社員の実績や、従事する業務態様に見合わない過度の指標を課す。

2・年賀販売が低実績の社員に対し、人事上、業績評価上の不利益取扱いをほのめかす。

3・年賀販売が低実績の社員に対し、他の社員への見せしめとなるような営業指導を行う。

検証！ 検証！ 検証！

去年は、早々と年賀販売当日から金券ショップへ持ち込まれたが今年はどうか。

「立替払い」禁止など、どこ吹く風と言わんばかりにレターパックで年賀葉書を送る光景も見られた、コンプライアンス研修など姿かたちも無かった。

今年、指示文書が発出される否や、目標が設定されて全社員に販売目安を自己申告するよう提出を求め、予約枚数の数値も期限を定めている、「目標、期待値、目安」違いを説明してもらいたい。

年賀葉書というものは郵便局でしか販売していませんから。

2度目の指示文書発出である、全員で内容の完全実施を検証しようではありませんか。

STOP! 再稼働!

さよなら原発北海道集会

10月4日、「原発いらぬ」の一店で幅広い勢力が共同する集会が3500人が参加し、雨の中、札幌市の大通公園で開催された。

「原発が動かなくても、事故がなくとも放射性廃棄物は残る、原発をやめて安全な北海道をつくるべき、未来の子どもたちのために一刻も早く泊原発を廃炉にしよう」と、北海道大学小野名誉教授は訴えました。

特別ゲストで、歌手の加藤登紀子さんは、「はだしのゲン」の一説を朗読、歌「ニューリポリウシオン」を熱唱しました、同じく、上田札幌市長もスピーチしました。

集会は「福島を忘れてはなりません、原発はいらぬ、再稼働を許してはならない、命と暮らしを守るため、そして、子どもたちの未来を守るために、泊原発の再稼働を止めましょう」宣言しました。